

ここで筆者が述べてきたことを裏付ける証明を5つ紹介しよう。

英会話の上達に英文法が重要であることを証明する生きた実例

①アメリカ人家庭で働いている日本人のメイドさんは英語が下手である。

私は以前通訳をしていたとき、日本在住のアメリカ人の家を訪ねる機会がよくあった。そこで働いていた日本人のメイドさんの例を紹介しよう。

私がそういうアメリカ人家庭のいくつかに行くといつも、「このことはどう言えばいいのですか」とメイドさんたちに英語に関する質問攻めにあった。質問されるたびに、24時間英語の世界にいるという事実にもかかわらず、そういうメイドさんたちの英語力が低いという事実には驚いたものだ。行く先々のメイドさんたちに、一体何年くらい働いているのかと聞いて、その長さに再度驚いた経験がある。彼女たちは10年、15年も毎日24時間英語の世界にいるのである。しかし、英語力はというと、きわめて低かったのだ。これは英語の基礎力がない人がただ英語の世界に住んでも、英語は進歩しないことを証明する生きた実例のひとつなのである。

②アメリカ人と結婚して30年になる日本人でも、英語の下手な人が多い。

私はアメリカにいたときに、アメリカ人と結婚している多くの日本人の男性、女性と知り合う機会があった。彼ら、彼女らは英語が上手な人たちと下手な人たちの2つに分類できる。英語が上手な人たちは、日本の大学を卒業してアメリカの大学院へ留学した人たちであった。したがって、渡米する前にTOEFLのテストで合格点を取って留学した、

英語エリートの人たちなのである。こういう人たちと電話で話すと、一瞬アメリカ人と話しているのか、という錯覚を覚えたくらいであった。

しかし、数の上では、下手な人たちのほうが90%という感じであった。アメリカ人と30年も結婚していても、英字新聞の三面記事でさえきちんと読めない人がほとんどなのである。テレビとなるとなおさら分からないと、異口同音に言っていた。こういう人は、日常会話もきちんとした英語ではなく、いわゆる一般に言うブローケンイングリッシュなのである。30年もアメリカ人と結婚して日常会話すら下手な理由は、アメリカ人と結婚したときに英語の土台、すなわち英語の構造を作っている英文法をきちんとマスターしていなかったからなのである。

これは英文法をマスターせずにアメリカに30年間住んでも、その上アメリカ人と結婚していても、英語力は伸びないことをはっきりと教えてくれている、生きた2つ目の実例なのである。

③開校1ヵ月で受講生の3分の2を脱落させてしまった私の失敗

私は約30年前に英会話学校を創立した。学校が駅に近かったためか、募集開始1ヵ月で約600人が入学したのである。入学者100名くらいを予想していたので、英会話への関心の高さに驚いた次第であった。

レッスンは英米人が主に担当した。私も含めて日本人講師も担当したが、全員日本語を使わず、英語だけで指導した。開講した第1回目のレッスンの日は、どのクラスも満員(25名)であった。ところが2回、3回とレッスンを重ねるうちに欠席者が目立ち、1ヵ月もしないうちに、なんと3分の1に激減してしまったのである。原因を調べてみたところ、受講生の基礎力不足で、英語だけのレッスンが、チンプンカンプンについていけないということだったのである。

私自身日本で生まれ、英語の基礎は日本で勉強した。英会話学校を創立した時には、学生時代に味わった英語の難しい点は自分なりに覚